

図書 紹介

奇跡の職場－風評被害から職場を守り抜いた人々

著者：谷村龍児

発行：憐文芸社／〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-1／

TEL03-5369-3060／四六並判／128頁／価格1000円（税別）／2011年3月15日発行

3月11日午後2時45分頃東日本巨大地震とそれに伴う大津波が発生し、死者・行方不明者2万7千人、避難者17万2千人をそれぞれ超える被害となっている（3月末現在）。また、東電福島第一原発の爆発事故による放射能漏れでは屋内退避指示が出た自治体では「放射能濃度が高い町」という「風評被害」が広がり物流が滞り、町の機能がストップし、その後、農産物、水道水、工業製品にも及び、社会に大きな影響を及ぼし、3週間を経過した現在、もはや「風評被害」ではなく、現実の深刻な大問題となってきている。

本書は、製造するパンの中に針が入っていたことから会社がいかに風評被害を防ぐことに腐心したかを描いたノンフィクションであり、構成は以下のとおりである。

1. 事件発生－製造過程には問題なし
2. 次々発生するクレーム－翻弄される関係者たち
3. 大阪府警が工場に常駐－捜査室「下島事務所」
4. 職場の平穏に腐心－よりよき人間関係を結ぶために
5. 企業と警察との確執－犯人内部説でビデオカメラ設置
6. 金属検出器で厳重なチェック－人手不足と人材のやりくり
7. その頃、犯人は－ふだんの生活の中
8. 犯人内部説－個人面談はじまる
9. 内部説続く－雰囲気は暗い方へ
10. 暴力団事務所－脅しには屈せず
11. 犯人の苛立ち－自らマスコミに密告する
12. 蟻地獄からの脱出－処方箋は高校時代の部活
13. 盛り上がる盆踊り大会－近隣住民とともに
14. 捜査は外部犯行説へ－スーパーの防犯ビデオ
15. 二度目の年越し－疲労困憊の関係者
16. 不審者－防犯ビデオに映った人物

17. 尾行―気づかれないために
18. 現行犯逮捕―あっけなかったその時
19. 事件はマスコミにより白日の下に―実際は八十件とは!
20. 社員の愛社精神―風評被害の戦いに勝利
21. 報われた官民一体の協力―栄誉と納得できない判決と
22. いま思うこと―犯罪に無防備の食品企業

菓子パンに縫い針が混入された 20 年前の实在の事件を題材に被害を受けた製パン会社の当時工場長である著者の行動や心理描写を軸に、その経緯が時系列に描かれており、人柄、統率力、判断力そして一致団結した社員の愛社精神が伝わってくる。事件発生から解決までには1年半を要し、その間の犯行は実に 80 回に及んだというが、喫食による怪我人はひとりも出なかったのか、消費者からマスコミへの通報はほんとうになかったのか。その後このような事件は全国で頻発しており、内部告発が盛んになっている昨今では考えられない奇跡である。

「小説を書いたので読んでほしい」とのメールが震災の前日に入った。20 年前の事件をなぜ今書き残す気になったのだろうか。社員の愛社精神と団結力を描きながら何故プロフィール欄に所属していた会社名を書かなかったのか。古希を迎えて生き様を書き残しておこうということだったのか。いやそうではなく「こんな不条理なことが世の中であってよいのだろうか?」と結んでいるように産地偽装、賞味期限の改ざん、原材料偽装、中国産餃子の農薬混入事件、カビ毒汚染米の問題等々と犯罪絡みの食の安全性が脅かされている昨今、その悔しかった思いを危機管理の事例として関係企業の管理職の諸氏に読んでほしいとの思いだったのだろう。是非一読をお勧めする(有)食品衛生研究会 近藤武志)。